

カリキュラム・マップに基づいた教育課程の検証結果 (社会福祉学科 社会福祉専攻)

○令和6年度の前期、後期、通年科目についての教育課程の適切性の検証結果は次のとおりである。
(検証事項：内容の適切性、隣接科目との内容の重複、開講時期、GIOとの整合性、カリキュラムの問題点等)

【成果・できていること】

- ・ 検討事項について、特に問題なしとする科目が多い。
- ・ 上記のことは、各科目の担当教員が学科ディプロマ・ポリシーを踏まえた教育を展開している成果である。
- ・ 「社会福祉原論 II」では、前期「社会福祉原論 I」の学びを基盤に現代社会問題の考察ができています。
- ・ 「社会的養護 I」では、幅広い保育の専門性や多様な子ども理解を学ぶ機会となっている。
- ・ 「保育内容指導法（健康）」や「保育内容指導法（表現）」では、保育内容に指導法を理論と実践を往還させた学習を展開している。
- ・ 「保育内容の理解と方法 I（造形）」では、子どもの発達の側面や造形的側面の理解を深める授業展開をし、グループ演習により教育・保育活動の展開を考察している。
- ・ 「保育内容の理解と方法 I（身体）」及び「保育内容の理解と方法 II（身体）」では、「保育内容指導法（健康）」における具体的な指導場面に関連づけることができています。
- ・ 「子育て支援」では、実習体験を通した子どもの実態と照らして理解を深めることができています。

【課題・できていないこと】

- ・ 令和6年度は保育実習 II/III で実習期間と実習施設との調整がうまくつかず、こども学科の実習期間と合わせる事ができず多くの科目で補講対応せざるを得なかった。
- ・ 前期後半から休職教員が出たためその応急的な対応が迫られた。来年度のその教員の復職に伴う科目担当については対応できてはいるが、4月に戻れない場合は年度末にさらなる対応に迫られることが課題である。
- ・ ソーシャルワーク実習の実習期間の延長に伴う対応は、社会福祉士養成教育における科目別カリキュラムに基づき教育に含むべき事項が示されているが、前期実習と後期実習での関連性及び実習教育プログラム・モデルに対応できていない部分がある。

【その他・今後の検討事項等】

- ・ ソーシャルワーク実習プログラムについて、他大学でも同様な課題があることを確認しているが、前期実習と後期実習の関連性や教育に含むべき事項について検討していく必要がある。
- ・ 科目担当者の変更において非常勤講師の削減を念頭におく。科目の内容や専門性において非常勤講師を依頼せざるを得ない場合も多いが、その場合でもなるべく県内から担当者を探すことに務める。